

袖ヶ浦市地域防災計画 (案)

<第3編 風水害等編>

第1章 総 則

(令和3年度改訂)

風水害等編

目 次

第 1 章	総 則.....	1
第 1 節	市域の保全	2
第 2 節	浸水被害の想定	3
1	小櫃川浸水被害想定.....	3
2	その他の河川.....	5

第1章 総 則

本編は、第1編総則で示された目的や基本的な考え方に基づき、集中豪雨や台風、竜巻等に起因する風水害等による被害を軽減し、市民の生命、身体及び財産を守ることを目的とし、平時からの災害予防対策、災害時における災害応急対策及びその後の復旧・復興対策の基本について定め、防災対策に万全を期するものとする。

節	項目
1	市域の保全
2	浸水被害の想定

第1節 市域の保全

市は、千葉県の東京湾側のほぼ中央にあつて、都心から 50 km 圏内に位置し、その形状は羽蝶形をなして広がっている。

市は、古来より平坦地では水稻栽培、台地では畑作物栽培が行われ、また、海岸部では魚介類等の採集による沿岸漁業が盛んであったが、昭和 30 年代に始まった京葉臨海工業地域の造成に伴って工業化が進み、農業と工業が調和した県内有数の産業都市として発展してきた。

災害に対しても治山・治水事業等を計画的に推進してきたことにより、近年は、風水害による被害は最小限にとどめられている。

しかしながら、都市化の進展や市民の生活様式の変化による上下水道、電気、ガス等ライフラインへの生活の依存度の高まり、高齢化の進展等による要配慮者の増加など、防災面に関する様々な課題が指摘されている。

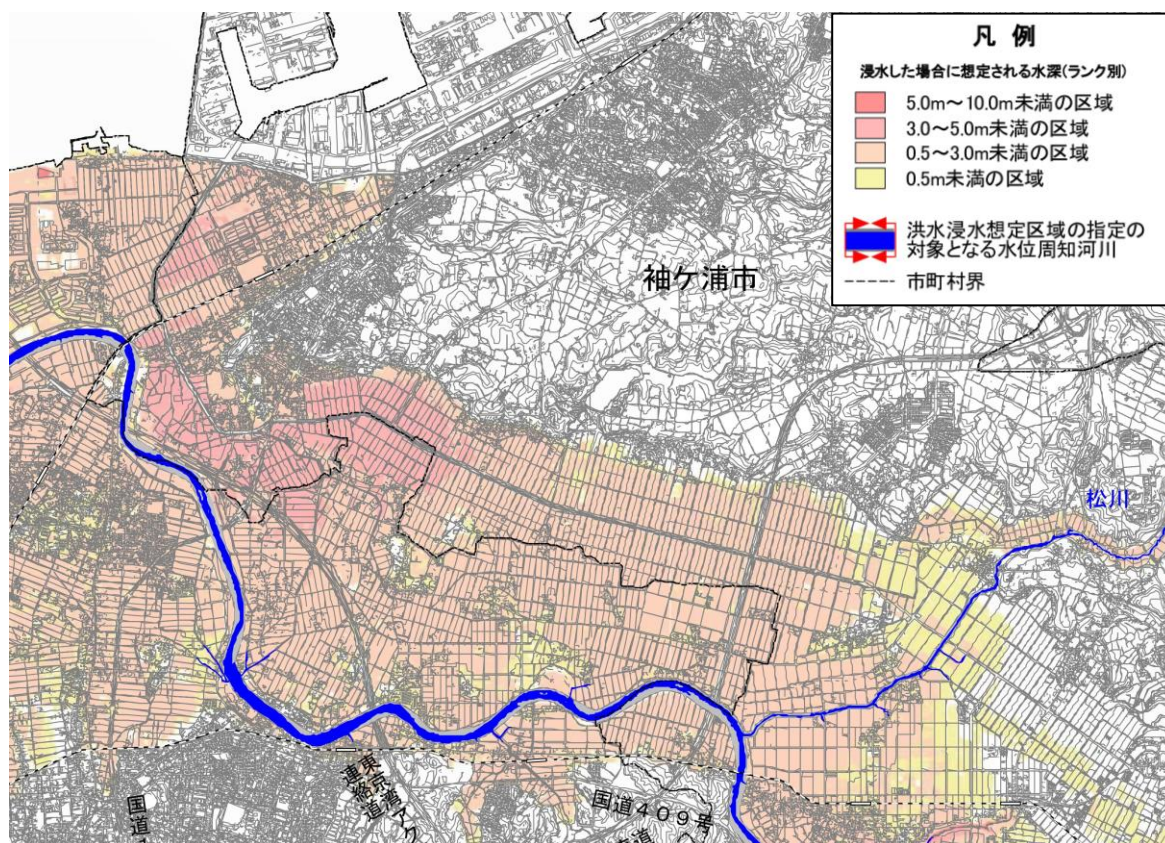
今後は、これらのことを念頭に、台風や集中豪雨、竜巻等による被害の発生を完全に防ぐことはできないものの、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方を基本とし、「命を守る」ことを最優先とした対策を講じていくものとする。

第2節 浸水被害の想定

1 小櫃川浸水被害想定

市域内を流れる小櫃川については、千葉県による浸水被害想定調査が行われている。これをみると、河川沿いに浸水深 0.5～3.0m未満の区域が広範に広がっており、河口付近には浸水深 3.0～5.0mの区域も存在している。

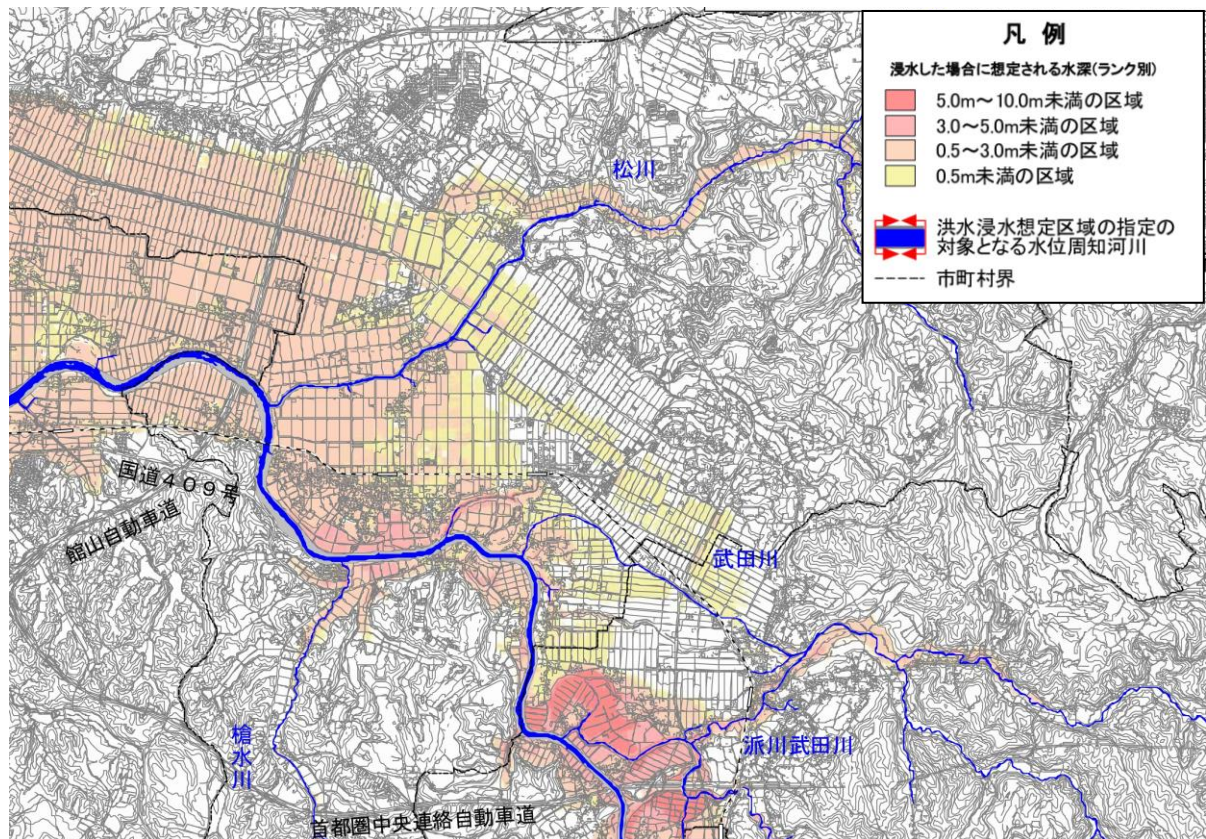
小櫃川浸水想定区域図（想定最大規模） [1/2]



24 時間雨量：630.9mm

資料：千葉県HP

小櫃川浸水想定区域図（想定最大規模）〔2/2〕



- (1) この図は、小櫃川水系小櫃川について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を示した図面です。
- (2) この洪水浸水想定区域等は、指定時点の小櫃川及びその支川の河道、洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により小櫃川及びその支川が氾濫した場合の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、対象河川以外の支川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- (4) また、この洪水浸水想定区域図は、小櫃川等の氾濫により生じる浸水想定区域と想定される水深等を示した図であるため、隣接する河川の氾濫の影響が考えられる区域では、別途、該当する河川の洪水浸水想定区域図を参照する必要があります。

資料：千葉県HP

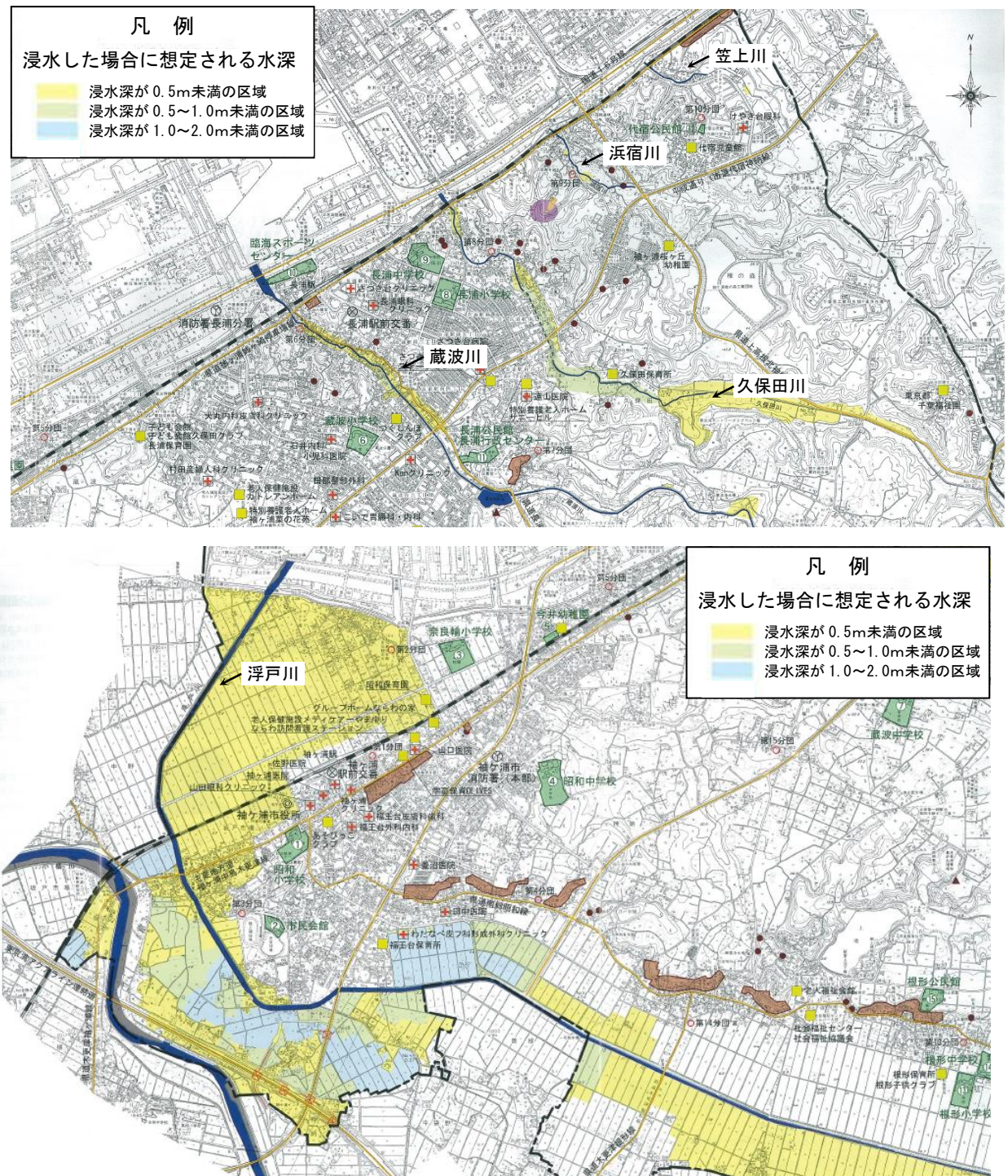
2 その他の河川

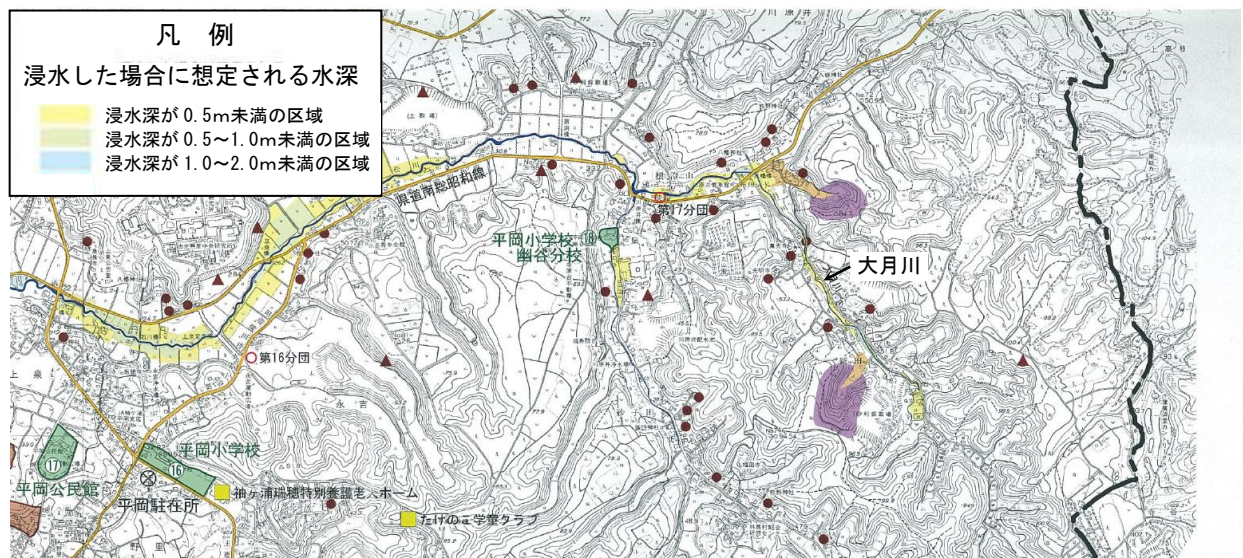
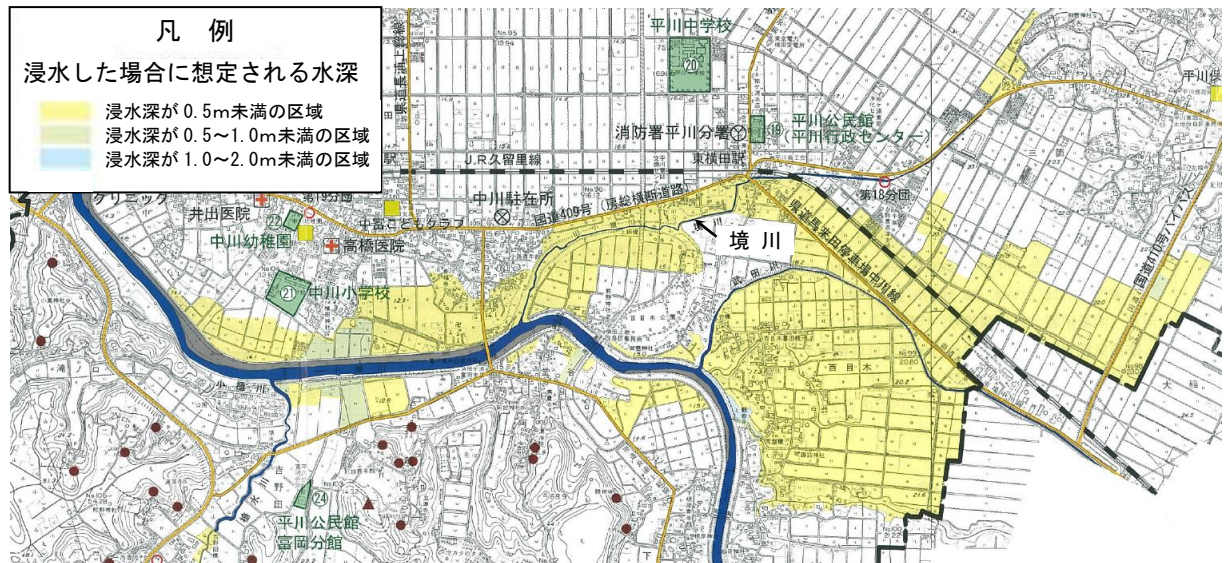
市では、浮戸川、笠上川、浜宿川、久保田川、蔵波川、境川、大月川について、独自に浸水シミュレーションを実施し、その結果を防災マップにまとめている。

これをみると、いずれの河川も浸水深が0.5m未満の区域が存在しており、特に、久保田川上流域、蔵波川下流域、浮戸川流域、境川流域に広くみられる。中でも浮戸川沿いにおいては、浸水面積が広範に及び、浸水深が0.5～1.0m未満の区域や1.0～2.0m未満の区域も点在している。

なお、想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定調査を令和3年度に実施している。

その他の河川の浸水想定区域図





- (1) 浸水想定区域と浸水深は、現在の河川の整備状況をもとにシミュレーションにより算定した結果で、浸水想定区域を一定の大きさのメッシュで区切り、メッシュ毎の浸水の深さの最大値で着色している（浸水深は3段階に区分して色分け）。
- (2) 大雨の規模は、概ね10年に1度程度（1時間雨量52.5mm）を想定している。
- (3) シミュレーションによる算定結果であり、実際の雨の降り方や周辺の状況によって、浸水する区域や深さがマップと異なる場合がある。

資料：袖ヶ浦市洪水防災マップ（平成18年度作成）